知求会 EU 支部ニュースレター
Newsreel Word
2025年5月1日
第54号

EU 支部長：松原真実子 MATSUBARA Mamiko　国際文化研究専攻修了　修士論文『異文化間コミュニケーションの研究―フィードバック作用―』

この号の内容

1　イタリア　2025年大阪･関西万博
2　EU 支部だより

･イタリア館
･キリストの埋葬
･カラビニエリ音楽隊
･ジロ･ディ･イタリア

イタリア　2025 年大阪･関西万博

ーアントニオ･タヤーニ副総理兼外務大臣、マ リオ･ヴァッターニ 2025 年大阪万博イタリア政府委員会総会長、リー ノ･フィジケラ大司教によるイタリア館の開館式。

イタリア大阪万博公式 HP プレスリリース 13.4.2025

2025 年 4 月 13 日、大阪･関西万博のイタリア館が正式に開館。開館式にはタヤーニ副首相兼外務大臣、ヴァッターニ総会長、フィジケラ福音宣教総局長らが出席し、テープカット後に設計者マリオ･クチネッラ氏と館内を視察。イタリア館は「アートが人生を再生する」をテーマにルネサンスの理想都市を再現し、万博の理念「いのち輝く未来社会のデザイン」に呼応。

開館にあわせて、輸出行動計画「アジア太平洋フォーカス」が発表され、バチカン美術館所蔵のカラヴァッジョ作「キリストの埋葬」も特別展示。イタリア館は、イタリア企業の国際化や文化発信のショーケースとして機能し、日本との関係深化の象徴ともなる。セレモニーでは、ゴッドマザーのセレーナ･アウティエリ氏とカラビニエリ音楽隊が演奏、また元自転車王者ニバリ氏も登場し、「ジロ･ディ･イタリア」へのオマージュが捧げられた。






･総合型リゾート（IR）
･夢洲





EU 支部だより　―万博後の夢洲―

2025 年大阪･関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中から注目を集めている一大イベントです。その中でも、特に注目を集めているのがイタリア館です。ルネサンスの理想都市を再現した建築デザインや、カラヴァッジョの名画「キリストの埋葬」の特別展示など、芸術と文化が融合した空間はまさに見どころ満載。イタリアの建築美や職人技を体感できる貴重な機会であり、訪れる人々に深い感動を与えています。

また、イタリア館では、食や音楽、ファッションといった「メイド･イン･イタリー」の魅力が随所に散りばめられ、まるでイタリアを旅しているような没入体験が可能です。ヴィンチェンツォ･ニバリ氏の登場による「ジロ･ディ･イタリア」へのオマージュや、カラビニエリ音楽隊の演奏も、イタリア文化への敬意と熱意を感じさせます。

しかし、万博には課題もあります。開催地である夢洲（ゆめしま）は、大阪湾に浮かぶ人工島であり、アクセスの整備や災害リスクへの対応などインフラ面での問題が指摘されています。また、万博会場の整備や関連事業にかかる巨額の費用に対し、市民からはコストパフォーマンスへの疑問の声も上がっています。

さらに、万博終了後の 2029 年には、同じ夢洲で統合型リゾート（IR）、すなわちカジノを含む複合施設の開業が計画されています。これについては賛否両論があり、観光客の増加や経済効果を期待する一方で、ギャンブル依存症などの社会的問題への懸念も根強く残ります。万博を文化･技術の祭典として成功させたあと、いかに持続可能な未来像を描けるかが、大阪と日本にとって大きな試金石となるでしょう。

イタリア館のような優れた国際展示が、多様な価値観を理解し合うきっかけとなることを願いつつ、万博後の夢洲のあり方にも注目が集まっています。（松原）